

令和6年度(2024年度)第2回経営戦略会議の概要

議 題	・地域幸福度(Well-Being)指標を取りいれたまちづくりについて ・千里中央地区拠点整備に対する考え方について
日 時	令和6年(2024年)12月24日(火) 10:00~11:30
場 所	豊中市役所 第一庁舎3階 第二応接室
出席者	長内市長、菊池副市長、野村副市長 総務部長、財務部長、都市経営部長 経営改革専門委員(長内委員、野田委員、文委員、柳川委員)

<主な意見>

地域幸福度(Well-Being)指標を取りいれたまちづくりについて

- 市の組織全体として何を目指していくのか、共通の目標として地域幸福度(Well-Being)指標を取り入れることは、非常に大切であると思う。地域幸福度(Well-Being)は抽象的な概念であるからこそ量や数値で定量的に見えるようにすることは重要であると思う。一方で、定量的に測りづらい部分もあるので、それらを質で測ることの検討や少数意見をどのように評価していくか、どこまで政策に取り入れるかなどを検討していくことも非常に重要なのではないかと。
- 地域幸福度(Well-Being)を市の計画の中に入れることは、大阪府の計画でもみられる。調査をすることは良いと思うが、調査で得られたデータについては統計学的に正しいものとなるよう慎重に分析しなければならない。また、「幸福度」という指標は外部要因の影響が大きくなるため、行政で調査分析をするのであれば、行政サービスの満足度など、行政ができるサービスに紐づくような調査もすべきではないかと。
- 今まで子育てしやすさ NO.1 という方針で進めてきたところに、地域幸福度(Well-Being)指標も取りいれていきますという動きは、全世代の幸福度を高めていくのだという市民に対する宣言にもなるし、データ分析に基づいた政策を行うことで、市民の皆さんの納得感も高まっていくのではないかと。
- デジタル庁が地域幸福度(Well-Being)調査を始めて間もないということもあるので、今後このデータがどのような推移で動いていくのか継続して見ていく必要がある。その中で、子育てや働くことと幸福度の関係性などを関連づけることができれば、それらを後押しすることにもつながり、市全体の幸福度の上昇にもつながっていくのではないかと。
- 会社で例えると、社内の風通しのよさや描くビジョンが見えているかなどは、社員

の幸福度・満足度に影響し、その会社に長く勤めたいか否かにも影響してくる。市政においては、しっかりといろんな世代の市民の生の意見を聴ける場(市民会議など)を設けて、それらの意見を吸い上げる仕組みを構築することが幸福度・満足度につながるのではないか。

- ❁ Well-Being という言葉を市民に理解してもらうために、富山県など先進的に取り組みを進めている他自治体の資料のように 1 ページでわかるような、だれが見てもわかりやすい資料作りも必要ではないか。
- ❁ 豊中市が定義する Well-Being 指標6つは、それぞれが因果関係を有しているために、大変難しい分析になると思われる。そのため調査目的を明確にし、できる限り抽象的なものを減らし、客観的に把握しようという努力が必要である。
- ❁ Well-Being 調査で測る項目というのは、複雑な因果関係の連鎖で生じている結果であるため、丁寧に紐解いていかなければならないと思う。定量調査で行うと、数字が出てくることで確からしく見えてしまう危険性があるため、出てきた数値をそのまま利用するだけでなく、例えばサンプルでインタビューをするなど、定性的な調査を組み合わせることも必要だ。
- ❁ 行政経営において、住みやすさ(=暮らしやすさ)をどのように測っていくのかについては、地域幸福度(Well-Being)以外の測り方として、行政が実施している各施策の満足度が総合的な住みやすさ(=暮らしやすさ)に対する満足度にどう影響しているのかを重回帰分析するといった測り方がある。
- ❁ 「教育」の視点から幸せについて考える機会を設けるのはどうか。例えば学校の授業の中で、幸せとは何か、今の暮らしはどのようなかといった問いかけを子どもにしてみることで今の自分たちの状況を客観的に見る機会を作ることで世界的に見れば恵まれた環境にあることに気づくことも大切なのではないか。大人が今の暮らしを大変と言っていると、それを聞いている子どももその影響を受けやすくなると思う。根本にある意識の改革が全体の幸福度の向上に寄与するのではないか。
- ❁ 今年度に市が実施した幸福度調査によると、データサンプルが少ないので正確には言えないかもしれないが、若者や子ども(10代~20代)は、意外にも幸福度が高い。どちらかというと、55歳を上回ったあたりから極端に幸福度が低下している。子ども・若者が将来に対して夢や希望を抱きにくいと総じて言われていると思っていたが、50代後半の層に対しての施策・アプローチも必要なのではないかと考えている。
- ❁ 60代の方と接する機会が多い中で、男性は現状の働き方としては再雇用で、仕事を辞めた後は今後どのように過ごしていこうかと検討している方が多い状況であるのに対し、女性は仕事を辞めても別のコミュニティに所属している傾向が強い。このコミュニティの所属の有無が幸福度にも影響しているのではないか。

(千里中央地区拠点整備に対する考え方について)

- ❁ 千里中央駅は、空港へも乗り換えなしで行くことができ、梅田や難波へも乗り換えなしで行けるという優れた立地であるため、それを活かして空港から来る観光客(インバウンド含む)のホテル・宿泊施設を誘致するのはどうか。また、宿泊施設のみならず、例えば日本文化の体験ができるといった観光の拠点となるようなコンテンツを追加することで、さらなる活性化を生み出すことができるのではないか。また、その立地の良さを活かしてスタートアップ企業の拠点とすることも有用であると思う。
- ❁ コンセプトをしっかりとって計画することが大事ではないか。様々な年代の人が、千里中央へ行けば居場所があると感じられる場所にすることが重要である。
- ❁ 千里中央地区は、周辺教育機関へのアクセスが容易という利点があるため、定住人口の増加が見込めるなど、豊中が発展する起爆剤になるのではないかと思っている。鉄道の延伸やその周辺の商業施設によりまちの様子が一気に変わることが見込まれるので、そういったことも踏まえてアピールできればよいのではないか。
- ❁ 現在、千里中央地区は、電車移動が中心のまちになっている。郊外の都市圏は車の流れも重要になってきているため、車で来ることを前提とした大型商業施設や駐車場の整備などがあればよいと思う。そういった整備には十分な土地の確保が課題の一つであるので、今計画している千里中央エリアをさらに広げて考えるのも良いと考える。
- ❁ 豊中つばさ公園「ma-zika」など、市内の賑わいが見込める拠点同士で連携してイベントなどを行うことができれば、さらなる相乗効果が得られるのではないか。